

旧船坂小学校 里山の風景

土佐道子



宝塚駅から乗車したバスが武庫川の支流である太多田川の谷あいの道を奥へと進むと、わずか10分ほどで阪神間の市街地とは別世界の山深い風景が広がる。かつて大坂から有馬温泉へと続く街道を行き交う旅人が目にした風景を彷彿させる。緑の中、バスは蓬莱峡の奇岩を横に見ながら七曲がりの坂道をゆっくりと登っていく。

バスがやっとのことで急勾配の坂を登り切って船坂の集落が開けた矢先、右手に見える山の稜線に沿ってずっと伸びた建物、それが旧船坂小学校の校舎だ。地元の人たちに100年以上愛され続けている小学校が真っ先に来訪者を出迎えてくれるのがほほえましい。さらに周辺にはかつての旅人も坂の難所を終えてほっと一服した場所にふさわしいのどかな日本の原風景が広がっている。バスを下車して、船坂アートビエンナーレや地元の情報を集めた新聞発行など地域活性化の中心メンバーである池田氏に案内をしていただいた。

この船坂集落は、宝塚へと繋がる太多田川と六甲山地から北に向かって流れる船坂川の交差点に

位置し、農業に欠かせない水脈が複雑に交わっていることから奈良時代に遡る歴史ある集落であることがうなずける。また、江戸時代には有馬への湯治客で賑わった街道沿いにあり、湯船に使う木材の供給地として有馬温泉と深い関わりを持ちつつも、時代の波に飲まれることなく棚田と茅葺き民家に囲まれた静かな生活を守って来た。

そんな集落の人々の学び舎であった旧船坂小学校は西宮市で最も古い歴史を持つ小学校の一つで、明治の始めにお寺の本堂を間借りしてスタートした後、校舎の新築、運動場の拡張とともに校舎の移転、改築、増築を重ねながら徐々に小学校の体裁を整えて行った。有馬温泉への街道はこの小学校の運動場を挟んで両側に延びる竹林の小道だとのこと。さっそくかつての旅人の様に旧街道を通って東門から運動場に入ってみる。すると運動場の奥にあるダークブラウンの板張り壁に緑屋根の平屋校舎が正面で迎えてくれる。この校舎は大正時代*に建設された後に何度もの移築改築を繰り返し、近年はランチルームとして使われていた建物で、ここに近世と近代が融合した風景が生み出されている。そして旧街道は校舎の横を抜けて竹林の登り坂へと続き、今も旅人を茅葺き屋根の民家が残る集落へといざなってくれる。

*西宮市管財課の財産明細には明治33年竣工とある。120111調べ



平屋校舎 教室



平屋校舎 外廊下からの風景

この小学校の校舎は、先ほどのランチルームに加えて、戦後 裏山を整備して運動場から 15m 程高い位置に建設された 2 階建て校舎と外廊下式の平屋校舎から成る。運動場からジグザクの坂道をのぼって赤い屋根のかわいらしい木造校舎玄関を見上げるとなぜか懐かしい気持ちになるのはきっと私だけではないだろう。玄関奥の平屋校舎の外廊下には人研ぎの手洗い場と百葉箱、そしてその向こうに太多田川を挟んで裏六甲の山並みと棚田の風景が広がる。また教室にはガラス窓いっぱい裏山の緑が迫っている。遠くに広がる里山の風景と間近に迫る樹々の葉に囲まれた教室にたたずむと、子供たちが自然を体いっぱい感じながらのびのびと学んでいた様子が浮かんで来る。2 階建て校舎からはさらに絶景の棚田の風景やランチルームと運動場が見下ろせ、今も休み時間の子供たちの歓声が聞こえてくるようだ。ランチルームから立ち上る待ち遠しい給食の匂い、チャイムとともに大急ぎで運動場から校舎へ駆け上がって来る子供たち、きっと棚田で働く人々も子供たちの歓声に包まれたにぎやかな校舎を仰ぎ見ながら農作業に励んだことだろう。教室の窓辺に立ち棚田の風景を眺めていると、そんな集落の人々のまなざしが伝わって来る。

ここは誰もが子供の頃の楽しかった出来事、人々の優しさを思い出すことができる、そんな不思議な場所だ。多くの人がこの歴史ある木造校舎のぬくもりの中で、船坂の子供たちをのびのびと育てた自然あふれる風景を眺めながら、その子供たちを見守って来た集落の人々の温かいまなざしを感じとって欲しい。



坂道から校舎玄関を望む



運動場からランチルーム、2階建て校舎を望む



ランチルーム外観



ランチルーム内部



2階教室窓から運動場、ランチルームを望む



旧街道から東門、運動場、ランチルームを望む

土佐道子

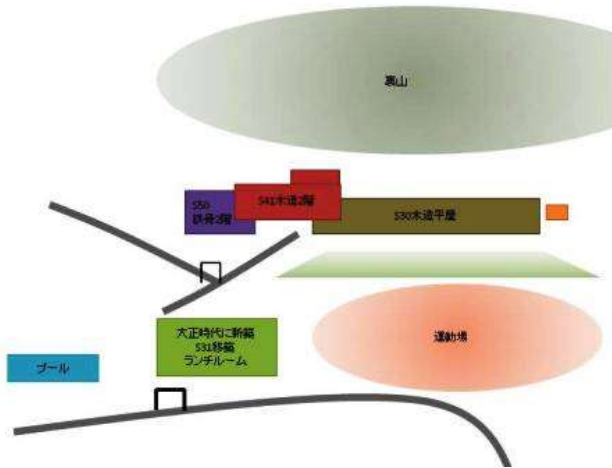
一級建築士事務所 土佐空間デザイン 代表

兵庫県建築士会まちづくり委員会 委員

兵庫県ヘリテージマネージャー・兵庫県景観アドバイザー

船坂小学校について

稲上文子



船坂小学校の配置（別敷地に体育館あり）

船坂小学校 130年の歩み参照

船坂は有馬温泉の玄関口として栄え鎌倉時代に始まった温泉を復興したといわれる仁西上人が湯船の板をこの地で調達したことから「船坂」という地名が生まれたそうです。明治時代から昭和にかけて寒天づくり、後に高原野菜といわれるパセリやほうれん草の栽培が盛んな時期もあったが、近年は高齢化も進み農業離れが起きている。2003年「船坂の農業・農地を考える会」も発足、船坂川には源氏蛍が舞うという。(051114 朝日新聞「まちぶら」参照)

その澄んだ空気と案外街から近い立地の価値見直しが今後「船坂」がどこへ向うかの鍵であろう。隠れ家的なおしゃれな店舗も根付きつつある船坂には「さくらやまなみバス」が便利です。さあ、行こう！



- 明治 6 年 (1873) 船坂善照寺本堂を仮校舎として開校
(現在も善照学園を運営)
- 明治 11 年 (1878) 現 JA 兵庫六甲・船坂支所の南に校舎新築
- 明治 25 年 (1892) 船坂尋常小学校と改称
- 大正 13 年 (1924) 現運動場に校舎を新築 (のちのランチルーム)
- 昭和 16 年 (1941) 船坂国民学校と改称
- 昭和 30 年 (1955) 校地を北に拡大し、木造校舎 (平屋) を新築
- 昭和 31 年 (1956) 旧校舎を西に移築し、講堂に改築 (のちのランチルーム含む)
- 昭和 34 年 (1959) 東校舎に給食室 (現図画工作室) 増築
- 昭和 41 年 (1966) 西校舎 2 階に木造 3 教室を増築する
- 昭和 50 年 (1975) 西校舎 2 階に鉄骨造 2 階建校舎を増築する
- 昭和 59 年 (1984) 講堂兼体育館竣工 (別敷地)
- 平成 10 年 (1998) ランチルームに鉄骨造増築
- 平成 14 年 (2002 年) クロウくなる
- 平成 17 年 (2005) 生徒は 58 人複式学級
- 平成 23 年 (2011) 廃校 地域での活用が模索されている
- 平成 23 年 (2011) 木造部分の耐震診断を実施
- 平成 25 年 (2013) ランチルーム木造部分を耐震補強
- 平成 28 年 (2016) 西宮市立船坂里山学校解開設



展示室

日本の学校建築の歴史（抜粋）

学校建築のスタートは明治5年の学制発布で、当初は寺や役所、民家などの転用であったその後、新築されることで日本の学校建築の歴史は始まる。

擬洋風の流行の後、校舎建築の全国一般化へむけ、文部省が明治15年に全国に指導をスタート。

明治19年 小学校令にて尋常・高等小学校に分化、義務教育4年スタート。

明治25年 『小学校建築図案』で奨励案。

明治28年 『学校建築図説明大要』

明治37年 『学校建築設計要項』（日露戦争）

明治40年 義務教育6年になり児童数急増、建築の定例化

昭和16-20年 第二次世界大戦

昭和19年 東海地震 M8.3

昭和20年 『戦災復興院』 昭和23年『建設院』のち『建設省』

昭和22年 『教育基本法』『日本建築規格小学校建物』

昭和23年 『モデルスクール指定』始まる

昭和24年 『日本建築木造規格小学校建物』

昭和25年 『建築基準法』

昭和29年 『学校給食法』



旧明倫小学校（S30 倉吉市） 円形校舎と内部の螺旋階段

昭和31年 『JIS 木造学校建物』

昭和34年 室戸台風

昭和38年 『JIS 木造校舎の構造設計基準』改正

昭和42年 『学校施設要綱』

昭和43年 『JIS 鉄骨造校舎の構造設計基準』改正

同時代の小学校の例：八幡浜市立日土小学校（S31-33）